

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体
育)／廣瀬 政雄

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

心身健康センターの業務として最も重要な診療の面において、看護師の交代による業務遂行上の支障や滞りなどの問題が起こらないことを最重要の目標とする。心身健康センターの業務は、病気やけがの診療、心理面での相談、医療機関への紹介および産業保健活動として、定期健康診断、特殊健康診断、健康診断や長期療養者の復帰後の指導区分と事後措置の決定、職場巡視と衛生委員会活動などより成っているが、学生と職員を対象とした定期健康診断業務はデータの収集と入力、健診結果の報告などをオンラインで行っているために、システムが複雑である。新たに採用された看護師とともに、年度を通じてこれを支障なく行うことが基本となる。

2. 点検・評価

本学において、大学院生に通年で「健康科学研究・演習」を講義し、学部生に対して「衛生公衆衛生」「こどもの保健」「こどもの地域保健」を後期に各15コマ講義している。このほか、「健康スポーツ学」を後期に4コマ、「生命倫理」を隔年で4コマ実施している。これまでの授業と学生の達成度に対する経験から、本学の学生は板書のみでの授業や図表のみを用いた授業よりも、全ての授業内容が図表と文章で出来上がった冊子(教科書のようなもの)を用いると達成度が格段に向上することがわかった。また、保健に関するものは医学の進歩を反映して、教科内容を絶えず改定更新してゆく必要がある。この目的のため、最近10年間に報道された医学健康関係の記事をインターネットなどから700篇あまり集めて分析し、授業内容に厚みを持たせた。

学長の定める重点目標に対する取り組みのうち、①授業内容に関して、これまでの経験により教員に必要な保健の知識をまとめて、分かりやすい教材を作成した。全般的な保健の基礎以外に、学校周辺で発生する危機対応に必要な事柄も重点的に記述した。例えば、近年、食物アレルギーによるアナフィラキシーショックにより学童が死亡するなどの事故が増加しているため、発生機序と病態の説明、一般的な対応とエピベン(アドレナリンの自己注射液)使用の判断と使用方法および危険性の有無について強調した。この他にも、教師の結核感染など、事件や事故として報道された近年の健康問題を集中的に取り入れて、卒業後に健康面での問題に適切に対応できるように指導した。また、これを補完するために、②授業方法の面でパワーポイントや臨床経験談を挿入するなどして、学生にとって興味深い内容となるように努めた。③成績評価について、医師国家試験方式の試験問題を授業ごとに作成して、客観的な評価となるように努めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育面では、新たに、子どもの保健、子どもの心身保健および健康科学研究の教科書を作成したので、これを用いることによる学生の理解度および達成度に対する効果を確認する。また、不備な点や問題点があれば改善に結び付ける。昨年作成できなかった他の科目(衛生公衆衛生学、健康スポーツ学など)についても教科書としてまとめる。

学生生活支援については、心身健康センター、臨床心理士養成コースの教員および学生課の職員が相談に当たっているが、生活面や心理面のみならず発達障害の治療や精神保健上の相談など非常に多岐にわたる内容となってきたので、各部署で連携を密にして対応してゆく。ボランティアに参加するなどの学生の各種の活動を支援する。健康面での支援とともに健康診断証明書を求められる場合などには、これを発行するなどの支援を行う。

2. 点検・評価

教育面では、新たに作成した教科書を用いて授業を行ない、学生の理解度および達成度を深めるように努めた。授業中に見つかった不備な点や問題点は、その都度説明を追加し、教材を訂正し、改定に努めた。昨年作成できなかった他の科目(生命倫理学、衛生公衆衛生学、健康スポーツ学)についても教科書として編集をすすめた。

学生生活支援については、心身健康センターの教職員、臨床心理士養成コースの教員および学生課の職員間で連携を密にして対応した。ボランティアに参加するなどの学生に対して、健康診断証明書を発行するなどの支援を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

1. 学部生の卒業研究をまとめさせる。
2. データのそろっている研究を論文にまとめる。
3. 適切な研究課題で科学研究費補助金を申請する。
4. 他大学の研究者と共同研究を行う。

2. 点検・評価

1. 学部生は「学生の生活習慣および運動履歴と骨密度」を卒業研究のテーマとしてまとめさせた。
2. 従来の研究データに最新のデータを追加して論文としての内容を持ちうるか否かについて検討した。
3. 科学研究補助金を申請する目的で研究課題を検討したが、従来のテーマでの研究が途絶えてしまっているので、新たに申請するのは困難と判断した。
4. 他大学との共同研究は、英文論文3篇を投稿したうち、2篇が受理された。他の英文論文1編は他誌への投稿を検討している。
学会発表では、日本輸血・細胞治療学会と日本薬学会の中国四国地方会においてそれぞれ研究発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 学生支援委員会委員として、学生の支援に当たる。
2. 臨床研究倫理審査委員副委員長として適正に活動する。
3. 入学試験、学生の各種研修およびスポーツの大会などにおける救護活動を通じて大学運営に参加する。
4. 学校保健安全法および労働安全衛生法の規定事項に即して、大学における保健活動を行う。

2. 点検・評価

1. 学生支援委員会委員として、学生の支援に当たった。
2. 臨床研究倫理審査委員副委員長として審査を一件行なうなど、適正に活動した。
3. 入学試験、学生の各種研修およびスポーツの大会などにおける救護活動を通じて大学運営に参加した。
4. 学校保健安全法および労働安全衛生法に規定された内容に即して、大学における安全衛生保健活動を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

1. 本学で行っている一般的な産業保健活動の実施対象である。
2. 健康手帳などで行っている健康に関する情報の発信・啓蒙などの活動を行う。
3. 国内と海外の学術誌の査読の依頼には積極的に担当する。

2. 点検・評価

1. 産業保健活動の実施対象として、健康診断・事後指導などの支援を行った。
2. 健康手帳で健康に関する情報を発信し、健康情報の普及と啓蒙活動を行った。
3. Nature誌と連携しているスイスのFrontiers Groupから、インターネット上の医学雑誌において、癌の薬剤耐性に関する分野をchairmanとして取りまとめるよう依頼された。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)